

### 「あの国の防疫対策はまさに模範的だった…」

世界中が前代未聞のパンデミックに侵されている中、ウイルス拡大の封じ込めに唯一成功した国がありました。

その国とは、台湾です。

世界では 5418 万人が感染し、131 万人もの死者が出ている中…台湾では今年1月から、普段と変わらない生活を送っています。対策本部も外出自粛を特に求めています。さらに数日前までには、200 日間連続で新規感染者ゼロを達成しています。

しかし、台湾は当初、「世界2位の感染規模になる」と言われていました。台湾と中国は地理的に近い上、中国で生活したり働いたりする台湾人は非常に多いからです。

にもかかわらず、なぜ世界で台湾だけが、ウイルスの封じ込めに成功したのでしょうか？ その台湾の強さの裏には、50 年間にもわたる中国との戦いによって培われた教訓が活かされていました…

本誌では、台湾のウイルス封じ込めの舞台裏を徹底的に解剖します。記事を読むことで、台湾が前代未聞のウイルスにも対応できた理由がスッキリと分かり、まだ混乱し続ける日本がとるべき対応も、理解できるようになるでしょう。

ぜひ本誌を手にとってみてください。これは本誌に掲載されている一部です。他にも、こんな内容が盛り沢山です。

### 内容・執筆陣

- #contents01 台湾に今こそ世界が学ぶべきこと
- #contents02【王 明理】蔡英文政権一期目の実績と今後への期待
- #contents03【趙 中正】蔡英文総統の政治手腕とその人柄
- #contents04【林 建良】武漢ウイルスと台湾 —加速する中国との分断
- #contents05【藤井巖喜】ポスト武漢ウイルスの社会構造
- #contents06 中国に「ノー」を突き付けた台湾が今、日本に望むこと
- #contents07 自由で開かれた台湾を守る…ONE TAIWAN プロジェクト
- #contents08「日台戦略的友好シンポジウム」で学んできたこと
- #contents09 台湾研修ツアーを終えて…… メンバーの感想
- #contents10 日本、台湾、そしてアジアの自由な民主政治のために
- #contents11 台湾在住作家 片倉佳史の「台湾写真紀行」
- #contents12 我々は何故「自由」を失ったのか？ウイルスから見る文明史
- #contents13 World watch【飯柴智亮】新型コロナウイルスと米軍

特集  
**台湾と民主主義**  
監修 林建良

武漢コロナウイルス対策で実力を再確認させた  
台湾に今こそ世界が学ぶべきこと……………6

蔡英文政権一週目の実績と今後への期待 王明理……………14

蔡英文總統の政治手腕とその人柄 趙中正……………20

武漢ウイルスと台湾——加害する中国との分断 林建良……………26

ポスト武漢ウイルスの社会構造 反グローバル化とローカル化 藤井厳喜……………34

王明理×趙中正×林建良×藤井厳喜 緊急！四者会談  
中国に「一」を突き付けた台湾が今、日本に望むこと……………40

自由で開かれた台湾を守る………

**ONE TAIWAN** プロジェクト 報告レポート……………51

@TOKYO  
日台は運命共同体！日本から送った「台湾加油」のエール……………52

@TAIWAN リップシンクセッション  
台湾に宿る「日本精神」と知られざる歴史を巡る……………57

——台湾総統府……………58

烏山頭ダム・八田與一記念館……………60

二二八平和公園・二二八記念館……………62

猴硐・十份……………64

「日台戦略的友好シンポジウム」で学んできたこと……………65

台湾研修ツアーを終えて……メンバーの感想……………67

日本、台湾、そしてアジアの自由な民主政治のために——台湾政府要人の対話……………69

台湾在住作家 片倉佳史の  
**台湾写真紀行**……………81

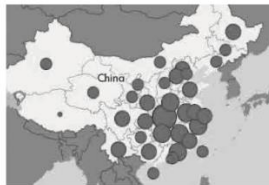
我々は何故「自由」を失ったのか？  
武漢ウイルスから見る文明史——「自由」と「隷属」の二項対立 藤井厳喜……………89

World Watch  
新型コロナウィルスと米軍 CBRN兵器への基本対応 飯柴智亮……………96

海外邦人が語られる反日活動の実態  
憎悪を呼び起こす慰安婦像 ①作られた反日感情 山岡鉄秀……………104

編集後記……………112

- 「台湾と日本の決定的な違い」  
日本はどこで間違えたのか…台湾に学ぶ“政治と防疫”の強さとは
  - 「台湾コロナ対応は1月11日に終わっていた？」  
“総統選”がコロナ封じ込めの明暗を分けた理由
  - 「蔡英文再選の舞台裏」対抗馬は自爆していた…暴露されたフェイクニュースの中身とは  
台湾に今こそ世界が学ぶべきこと
- #contents01



2月5日発表のWHOの感染リポートから。台湾が中国の一部として扱われている



台湾と中国がひとくくりにされたNHKの武漢コロナウイルス関係の特設サイト

当初、新型コロナウイルスの感染規模が中国に次いで世界2位と予想されていた台湾。だが、「一つの中国」の名のもとにWHOから弾き出され、孤立無援のなかで、感染者395人、死者6人（4月15日時点）との国より防疫に成功している。世界中が称賛するこの防疫成功の陰には、中国と闘う蔡英文政権の強い決意があった。

世界中が年越しムードに湧く2019年12月31日、武漢市衛生健康委員会が同市で原因不明の肺炎感染者27人の存在を確認した。それを受け、中国政府はWHOに報告。一方、台湾では立法院（国会）が会期末を迎えたこの日、蔡英文政権

接選挙で国民が選ぶ成熟した民主国家でありながら、あらゆる状況において「国」として扱われない。台湾の加盟はおろかオプザバー参加も拒絶しているWHOの公式サイトでは、4月3日現在も台湾は中国の地域としてカウントされている。ところが、今回の武漢コロナウイルスへの対応をめぐって、WHOが信頼できない無能な機関だと世界

中が気づき始め、欧米諸国からWHOの中国への付帯と台湾排除を非難する声が上がっている。この「一つの中国」というまやかしは、各国政府の出入国管理が大きな影響を及ぼす疫病の世界的流行という事態に多大な混乱をもたらした。日本では、厚労省やNHKの武漢コロナウイルスに関する特設サイトで中国の地図やカテゴリーに台湾が含まれていた。この表

台湾人は中国人と同列に扱われ、検査対象者とされた。一方、外務省のサイトでは中国の地図に台湾は含まれておらず、台湾の扱いが政府機関内部で異なるという混乱が生じている。厚労省とNHKのサイトは、全日本台湾連合会（会長・趙中正氏）などの在日台湾人団体、さらには台湾外交部（外務省）の抗議により訂正された。

武漢コロナウイルス 爆発前夜の台湾



1月30日、防疫対策に関する談話を発表する台湾首脳陣 ©台湾総統府

世界の孤児 台湾の現在の正式国名は「中華民国」といい、日本もアメリカも正式な国交を持たない。両国とも、「中華人民共和国」と国交を結んだ際、台湾とは断交したからだ（日本は72年、アメリカは79年。当時、台湾は「自分たちこそが中国である」と主張していた蔣介石（国民党主席）が支配しており、中国共産党とは反

目していた。以降、他国も続々と断交、現在台湾と国交があるのはアジアやアフリカなど15カ国しかない。中国は「台湾は中国の不可分の領土であり、核心的利益である」として、台湾に対する主権を主張し、世界中に「一つの中国」原則を守るよう強いてきた。そのため、台湾は2300万人の人口を抱え、教育水準も生活水準も高く、技術が発達し、治安も良好で、総統（大統領）を直

武漢コロナウイルス対策で実力を見せつけた台湾に今こそ世界が学ぶべきこと

台湾に今こそ世界が学ぶべきこと・専門家からの寄稿論文

台湾独立建国聯盟日本本部委員長・王 明理

#contents02

慶應義塾大学文学部卒。日本に亡命中の王育徳(言語学者・台湾独立運動の組織「台湾青年社」の創立者・明治大学教授)の次女として東京に生まれる。2011年より父の遺志を継いで台湾独立建国聯盟日本本部委員長。日本李登輝友の会理事。在日台湾婦女会理事。日本詩人クラブ会員。著書に、詩集『故郷のひまわり』(玉山社)、翻訳書『本当に「中国は一つ」なのか』(草思社)、編集書『王育徳全集』(台湾・草根出版)、『「昭和」を生きた台湾青年』(草思社)等多数。

おう めいり

- 「世界が注目する中卒 IT 大臣」IT を駆使して政府改革？コロナを封じ込めた手腕とは
- 「秘録：知られざる 50 年の戦い」  
新型コロナへの最大の勝因...台湾政治を築いた努力の歴史
- 「日本政府は覚醒せよ！」最大の危機はこれから起こる？  
台湾からの期待と日本がすべきこと

今世界中が睨みし、これまで台湾を過小評価してきた国々は、台湾がこれほどまでに知性と行動力を備えていることを知って見直しつつある。

蔡英文総統は昨年12月の時点で、選挙戦の真最中にも関わらず、武漢で発生した新型コロナウイルスを注視していた。その為、選挙後、速やかに対策本部を作ることができた。

この対策本部のメンバーが非常に優秀で、2003年のSARS流行時に対応に当たった実力者が揃っている。筆頭は副総統の陳建仁で、もともと公衆衛生学の権威である彼はSARS発生当時、衛生福利部部长（厚生大臣）であった。彼は、WHOから情報を得られずに感染が広がってしまった台湾国内の状況に対処し、見事に終息させた実績がある。蘇貞昌行政院長は当時台北県

長で、わずか10日間で普通の病院を感染症対策病院に作り替えた。現在の衛生福利部部长の陳時中（陳時中）は歯科医出身だが、行政手腕に優れ、献身的に陣頭指揮を執ってきた。公開の記者会見は1月末から必ず毎日一回以上行なっている。

最近、世界から最も注目されているのは、38歳のIT担当大臣、唐鳳（オードリー・タン）政務委員である。唐鳳はアメリカのIT企業で大成功した人物だが、近年は自分の力を台湾の国のために捧げる覚悟で台湾に戻っていた。

台湾社会の素晴らしさは、彼（彼女）の学歴が中卒で、男性から女性へのトランスジェンダーであることに偏見を持たずに、政府の重要ポストに迎えたことだろう。唐鳳はITを駆使し、縦割り行政の縛り

を受けずに自由に柔軟にシステムを考案し、政府はそれを採用している。今回の対策は、迅速な決断力、実行力、国民に対する情報公開が大きな特徴である。中国や感染国からの入国制限、マスクの国家管理、情報提供の徹底、感染者・感染可能者の隔離システムの徹底、違反者に対する厳罰措置、危険国への出国禁止又は警告等、次々に対策を打ち出している。

政府の対策に国民は非常に満足していて、満足度は84%、蔡英文政権への支持率は69・4%（3月30日時点）にまで上昇している。

**台湾社会の背景**

「台湾は昔から自由で民主主義の国だった」と思われがちであるが、実は今の自由な社会は約50年にも及ぶ



王明理  
長らく本省人と外省人の軋轢があった台湾だが、2014年のひまわり学生運動では多くの若者が共に立ち上がった。自由と民主を愛する台湾人アイデンティティは蔡英文政権の下でしっかりと根を張っている。

\*外省人……国民党と共に台湾に移り住んだ人々。

おう・めいり / 台湾独立建国聯盟日本本部委員長  
慶應義塾大学文学部卒。日本に亡命中の王育徳（言語学者・台湾独立運動の組織「台湾青年社」の創立者・明治大学教授）の次女として東京に生まれる。2011年より父の遺志を継いで台湾独立建国聯盟日本本部委員長。日本李登輝友の会理事。在日台湾婦女会理事。日本詩人クラブ会員。著書に、詩集『故郷のひまわり』（玉山社）、翻訳書『本当に「中国は一つ」なのか』（草思社）、編集書『王育徳全集』（台湾・草楓出版）、『「昭和」を生きた台湾青年』（草思社）等多数。

写真提供：共同通信



武漢コロナウイルスに 対する防疫政策

今年1月11日の台湾総統選挙の結果、蔡英文総統（民進黨）は韓国瑜（国民党）を大差で破り、立法委員（国会議員）も民進黨が過半数を取って安定した状態で政権二期目（5月20日発足）に入ることが決まった。約束通り、彼女は「自由な土地、民主主義の砦を守った」ことになる。台湾総統は世界で一番神経を使う難しい仕事だと思いが、それを率先してもう一期務めようという蔡英文総統の責任感と気概に拍手を送りたい。

この蔡英文政権の実力は、因らざるも今回の武漢コロナウイルスへの対応で顕著になった。中国の妨害でWHOにも入れない台湾が、迅速に効果的な防疫対策を取っていることに、

蔡英文政権一期目の実績と今後への期待

1944年(昭和19年)生まれ。日本大学法学部卒。南カリフォルニア大学 大学院・ポリティカルサイエンス部へ留学。台南出身の父親の影響を受けて 青年期から台湾独立運動に深く関わり、ブラックリスト解除後の1992年11月、初めて台湾の土地を踏む。台湾初の政権交代実現後、僑務委員会 僑務委員や諮問委員を歴任。2017年6月に全日本台湾連合会会長、2019年3月に日本李登輝友の会常務理事、9月に日本蔡英文総統後援会会長に就任。

日本蔡英文総統後援会会長・趙 中正

#contents03

ちょう ちゅうせい

○「台湾初の女性リーダー・蔡英文」

国民の絶大的な支持には理由があった…敏腕リーダーの意外な人柄

○「敵は国内にあり」中国共産党だけじゃない？

台湾独立を内部から邪魔する”共産党シンパ”の正体

○「習近平、なす術なし？」

蔡英文の最大の功績…中国の干渉を阻止する“最強法案”とは



民進党の集会で、「中国にノーと言おう」と書かれたメッセージを掲げる人々たち  
写真提供：共同通信

台湾の国民に対しても、「この戦いは独裁と民主の戦いである」と定義し、台湾人の進むべき正しい道を示してくれた。

国内においては、武漢肺炎ウイルス(COVID-19)の情報を2019年12月初期にいち早くキャッチし、国民の生命財産を確保するため、対策本部を立ち上げて情報収集し、防疫対策を講じた。さらに、同ウイルスに対する対策においてマスクの全面的な輸出の禁止、実名制によるマスク購入のアプリ開発など、野党中国国民党及び、いわゆる親中メディア、コメンテーター達の不合理で不条理な非難にも怯まず各部署に指示を出し、積極的に武漢肺炎ウイルス感染の情報を開示させ、武漢肺炎ウイルス撲滅のためリーダーシップを取った。

その結果の責任については蔡英文総統がすべて一人で負うという強い姿勢は、十分に称賛に値すると思う。私はほとんどの人生を日本で過ごしてきた。従って台湾の政治について詳しく理解しているわけではないが、日本に身を置いて台湾の政治を見た時に感じたことを、いくつか述べてみたいと思う。

### 第一期蔡英文政権の成果

日本には未だ女性の首相は誕生していないが、男性政治リーダーに負けず、理想を堅持し、果敢に決断し、国家元首として台湾の国家主権を守っていく蔡英文氏の姿勢は大いに評価できると思う。

民主進歩党は2016年に政権を奪還したものの、中国国民党が過去70年以上に渡って残っていた「負の遺産」はあまりにも多く、多岐に渡り、根深いものがあるなか、蔡英文総統は国民の支持を背景に、たった一期4年という短い間で多くの成果を出した。

例えば、雇用改善に基づく賃金アップ、減税、長期弱者のケア、年



毅然とした態度で中国と対峙し、新型コロナウイルス騒動ではいち早く防疫体制を固めて世界的な評価を得た蔡英文総統。彼女は一体、どんな人物なのだろうか？ 全日本台湾連合会会長の趙氏の目を通して、その人物像に迫る。  
写真提供：共同通信



ちょう・ちゅうせい/日本蔡英文総統後援会会長  
1944年(昭和19年)生まれ。日本大学法学部卒。南カリフォルニア大学大学院・ポリティカルサイエンス部へ留学。台南出身の父親の影響を受けて青年期から台湾独立運動に深く関わり、ブラックリスト解除後の1992年11月、初めて台湾の土地を踏む。台湾初の政權交代実現後、僑務委員会僑務委員や諮問委員を歴任。2017年6月に全日本台湾連合会会長、2019年3月に日本李登輝友の会常務理事、9月に日本蔡英文総統後援会会長に就任。

### 行動力と統率力に優れた女性リーダー

本日は2020年3月8日、台湾のみならず世界各国の「国際女性デー」である。原稿締切間近ではあるが、取り急ぎ、世の女性の皆様、在日台湾婦女会並びに蔡英文総統を支持してくださった台湾の女性の皆様に感謝をしつつ、この日に筆を取った。

いま、世界を見渡すと、女性政治家のリーダーの中で、蔡英文総統は傑出した存在だと思う。

最近の例で言えば、2019年1月2日、習近平が「告台湾同胞書40周年」の談話の中で、「台湾に対する武力行使を放棄しない」と恫喝したのに対し、蔡英文総統は毅然と「一国二制度にはノー!!」と答え、また

## 蔡英文総統の政治手腕と其人柄

1958年、台湾に生まれる。現在は栃木県在住。医師としての仕事の傍ら、評論家としても活動中。台湾正名運動の発案者であり、台湾建国運動とともに展開している。94年、東京大学大学院医学系研究科博士課程終了。07年「林一洋医師記念賞」受賞、17年「二等華光專業獎章」受賞。現在は在日台湾同郷会顧問、メールマガジン「台湾の声」編集長、台湾独立建国連盟日本本部国際部長、日本李登輝友の会常務理事、日米台関係研究所理事を務める。19年にはJCPACにも登壇、台湾の未来について演説・討論をおこなった。

「台湾の声」編集長・林建良

#contents04

りん けんりょう



## 台湾と民主主義

- 「21世紀の“モーセの奇跡”」  
武漢ウイルスが台湾を救う？繰り返される旧約聖書の歴史
- 「台湾人スパイ“台商”の暗躍」消えない親中勢力...  
中国共産党がもくろむ台湾崩壊のシナリオ
- 「報道されない武漢の真実」自宅のドアを鉄で溶接...24時間稼働する火葬場の地獄絵図

人と同様に、中国の隠蔽体質や一党独裁体制を知っていても自分とは関係がないと考え、中国の人権弾圧には無関心だった。それどころか中国に投資したり、中国企業とビジネスをする台湾企業にとって、中国の隠蔽体質や一党独裁体制は都合の良いことでさえあった。「台商」と呼ばれる彼ら中国で商売する台湾人は、ある意味で中国共産党一党独裁を支えてきた共犯者であると言える。

彼らは中国共産党幹部に便宜を図ってもらうために賄賂や経営権の一部を渡すなどして中国共産党と共生してきた。このような共犯構造の下では、台商は常に中国共産党に弱みを握られているため、中国共産党の指示通りに動かさなければならない。利益のために魂を悪魔に売った台商は、例外なく中国共産党の指示に

従って、台湾国内の親中政治勢力(国民党、親民党、新党など)に献金したり、選挙応援したりする。そのためどれほど台湾が民主化しようとも台湾国内の親中勢力は一向に消える気配がないのだ。

台商の支持というバックアップを受けた親中勢力は、台湾の言論の自由を逆利用して、台湾本土勢力を攻撃するでっち上げのネガティブキャンペーンを仕掛けたり、中国共産党にとって困る政策に反対したりして、中国共産党と呼応して台湾の民主主義制度を破壊しようとしている。

このように、台商も台湾の親中勢力も、実質的に中国共産党の第五列に成り下がっている。実際、これが中国の最重要戦略である。中国の御用学者らが「武力で攻め込むよ

りも台湾を丸ごと買収したほうが簡単だ」と折に触れて発言していることが何よりの証拠である。

しかし、中国のこうしたローリスク、ローコストの戦略は、突如降って湧いた武漢ウイルスによって、崩壊する可能性が極めて高い。

**武漢ウイルスには通用しない強権的手段**

核兵器を持つ軍隊も自国民弾圧を容赦しない武装警察も、武漢ウイルスには歯が立たない。人口一千万人以上の武漢市を一夜にして封鎖することでこの未知のウイルスと戦おうとするが、この荒っぽい手段で死なせたのがウイルスではなく武漢市民であったことは、同市の火葬場が24時間体制で操業しなければならなくなったことから分かる。



## 武漢ウイルスと台湾 —加速する中国との分断

### 林建良

旧約聖書の「The Exodus」(出エジプト記)では、迫害を受けるユダヤ人のために神がエジプトに疫病を発生させた。台湾人にとっては、武漢ウイルスが中国の魔の手から救い出す21世紀の「The Exodus」(出中国記)になるのかもしれない。

写真提供: Featurechina / 共同通信イメージズ

りん・けんりょう / 「台湾の声」編集長  
1958年、台湾に生まれる。栃木県在住。医師としての仕事の傍ら、評論家としても活動中。台湾正名運動の発案者であり、台湾建国運動とともに展開している。87年、東京大学大学院医学系研究科博士課程終了。07年「林一洋医師記念賞」受賞、17年「二等華光專業獎章」受賞。現在は在日台湾同郷会顧問、メールマガジン「台湾の声」編集長、台湾独立建国連盟日本本部国際部長、日本李登輝友の会常務理事、日米台関係研究所理事を務めている。19年にはJCPACにも登壇、台湾の未来について演説・討論をおこなった。



**21世紀のThe Exodus**

李登輝はかつて自身をエジプトからユダヤ人を救い出したモーセにたとえ、台湾人を中国の脅威から救い出したいと話したことがある。神様が迫害を受けているユダヤ人を救出させるため、エジプトに疫病を発生させたことが「旧約聖書」の「The Exodus」に記されている。

それと同じことが中国で発生している。2019年旧臘に中国湖南省武漢市で発生し、全世界をパンデミックの恐怖に陥れている武漢ウイルスだ。武漢ウイルスも台湾人を中国の魔の手から救い出してくれるのか。

**台湾の親中派が消えない理由**

これまでほとんどの台湾人は日本

## 武漢ウイルスと台湾 —加速する中国との分断

1952年生まれ。ハーバード大学大学院博士課程修了。82年に自身のシンクタンク「ケンブリッジ・フォーキャスト・グループ・オブ・ジャパン」を立ち上げ、40年間発行する会員制レポートは「世界情勢を読み解くバイブル」として高い評価を得る。99年、米ブッシュ政権との架け橋として外交の裏側を担ったのをはじめ、国際的・政治的な活動も精力的に展開。著書多数、「ニュース女子」など数多くのマスコミで活躍中。文化、思想、宗教など多方面から未来を見通す能力は内外の専門家から高く評価されている。

国際政治学者・藤井厳喜

ふじい げんき

○「コロナの真の恐ろしさ」

封じ込めても本番はこれから？スペイン風邪から学ぶ感染症の盲点

○「連発するチャイナ発の疫病」

コロナ、インフル、コレラ...ウイルスが中国でたびたび生まれる原因

○「コロナ後の未来予測」

中国を世界経済システムから除外...世界各国による新封じ込め政策

台湾と民主主義

きた経済のグローバル化、言い換えればボーダーレス経済化は完全に終焉した。その逆転現象が今、目の前で起きている。

武漢ウイルス感染症を防ぐ為には、国境における検疫を厳重に行なわなければならない。国境を守ることが即ち、国民を守ることであり、国防であるということが改めて痛感される。

国境を守るとは、国境を侵略してくる外国の軍勢力から国民を守ることであり、テロリストの国内への侵入を防ぐことであり、武漢ウイルスをもった外国人の入国を許さないことである。現在、この感染症に対する決定的な特效薬は見られていない。

一方、ワクチンはアメリカのビッツバーグで既に完成し、人体実験の

段階に入っているが、これも科学的に効果が証明されたわけではない。こういった段階では病気の拡散を防ぐには、隔離という最も原始的な手段を用いるしかない。

たとえ特效薬やワクチンが開発された後でも、厳しい検疫を緩めることは許されないだろう。何故ならチャイナでは、政府が武漢ウイルスを制圧したと発表しているが、実際には無症状の感染者が多数残っており、彼らが原因となつて、いつ第2波の感染爆発が起こるか分からないからだ。

今回の武漢ウイルス感染症は、ちょうど100年前に起きたスペイン風邪と極めて類似している。スペイン風邪の場合、流行は第3波まであり、最も多くの人々を死に追いつつたのは第2波の流行であった。

なぜ中国発の疫病が度々発生するのか？

このところチャイナからは継続的にウイルス性の感染症が発生して世界に拡がっている。鳥インフルエンザ、豚インフルエンザ、ハンタウイルス等々である。

ウイルスではなく細菌感染症の例をとつても、コレラが大流行し、日清戦争の掃蕩兵を大変苦しめた。チャイナではベストも度々、流行し、外国への脅威となつてきた。

今日経済大国として発展した後も、チャイナでは一般庶民の衛生状況は極めて悪く、疫病流行の根本的原因となつている。また南チャイナでは、人間、家畜、鳥などが混然一体となつて暮らしており、異なつた種の間でウイルスが進化して新しい感染症が



武漢ウイルスと緊急事態宣言によって一変した私たちの生活。この変化は今後、どのような余波をもたらすのだろうか。数々の未来予測を的中させてきた藤井厳喜氏に、武漢ウイルス以後の世界を大胆に予測してもらった。

写真提供：共同通信

ふじい・げんき／国際政治学者

1952年生まれ。ハーバード大学大学院博士課程修了。在学中の82年に自身のシンクタンク「ケンブリッジ・フォーキャスト・グループ・オブ・ジャパン」を立ち上げ、約40年間発行する会員制レポートは「世界情勢を読み解くバイブル」として高い評価を得る。99年、米ブッシュ政権との架け橋として外交の裏側を担ったのを始め、国際的・政治的な活動も精力的に展開。著書多数、「ニュース女子」など数多くのマスコミで活躍中。文化、思想、宗教など多方面から未来を見通す能力は内外の専門家から高く評価されている。



武漢ウイルスで世界はどう変わるのか？

武漢ウイルスは、世界のありようを根本的に変えてしまうだろう。ピフォー・武漢ウイルスの世界とアフター・武漢ウイルスの世界は、断絶された別世界のように思われる。

但し、武漢ウイルス感染症が全てを引き起こしたわけではない。実はそれ以前から進んでいたトレンドが、この感染症のパンデミック化によってより速くなり、より激しくなっただけである。その先に世界の新しい形が見え始めている。

武漢ウイルス後の世界①

反グローバル化

|| ボーダーレス経済の逆転

過去40年ほどの間、急速に進んで

ポスト武漢ウイルスの社会構造

緊急！4者会談

王明理 × 趙中正 × 林建良 × 藤井厳喜

○「自民党は中国のご機嫌とり」日台米同盟で日本の政治を立て直す！

○「シリコンバレー化する台湾」アジアの小さな島がIT 大国になれた理由

○「台湾死守＝日本の国益」日本国防の危機？台湾が中国に落ちる恐ろしい未来 中国に「ノー」を突き付けた台湾が今、日本に望むこと

王明理×趙中正×林建良×藤井巖喜

# 中国に「ノー」を 突き付けた台湾が 今、日本に望むこと

台湾との関係を積極的に強化しているトランプ政権。新型肺炎抑止では米台で物資提供の協力体制を敷き、3月末には台湾の外交を支援する新しい法案がアメリカで成立。対中政策として日米台、3国の関係強化が重視されるなか、順調なのは米台だけで、日本だけ“落ちこぼれ”感が強い。そんな日本を台湾人の識者はどう見ているのだろうか？



緊急！  
四者会談

## 民主主義と自由を 選んだ台湾の人々

**藤井** 今日王明理さん、趙中正さん、林建良さんのお三方に、日台関係について、そして今後の蔡英文政

権の行方についてお話を伺いたいと思います。まずは今年1月の総統選で、蔡英文総統が史上最高の得票数で再選を決めました。それについてどうお考えですか？

**王** やはり、台湾人が自分たちの1票1票で民主主義と自由な社会を選

と思っていました。独裁か自由かと言えば、誰もが「独裁は嫌だ」と思いますよね。でも、なぜ韓さんが552万票もあつたのか。これが私としては不可解ですね。蔡英文さんのことを十分に理解していない人たちがいたのだらうと思います。この点については、これから先我々も対策なりを考えなければならぬところだと思っています。

こと。「国際的孤児」と言われる台湾ですが、今回の選挙の結果が評価され、発言権を得ました。3つ目は、これはもちろん台湾人にも自信を与えました。

## 台湾の若者たちが 一票投じに続々帰省

**藤井** 若い人の蔡英文さんに対する支持が圧倒的に強かったとも言われていますね。台湾の法律だと、戸籍の本籍地でなければ投票できないのですよね。地元を離れている人たちも、本籍地へ戻って選挙に参加した。

れを見た若者たちは4時間、5時間もかけて故郷に帰りました。1月11日というのは台湾の大学では期末テストの時期なのに、それでも投票に向かい、新幹線、電車、長距離バスは若者で満員でした。「もし蔡英文が負けたら、国が中国に呑み込まれてなくなってしまう」という危機感ですね。

**林** 私は、今回の蔡英文の勝利は3つの大きな意味があると思います。1つ目は、世界中の民主国家に自信を与えたこと。中国にかなりの経済依存をしているこんなに小さな台湾でも、国民の1票の力で中国に「ノー」が言えた。これは台湾だけでなく、全世界の民主自由の勝利だと思います。2つ目は、これによって台湾の発言力がかなり強くなった

**林** 統計では台湾の40歳以下はなんと72%が蔡英文に票を入れているのです。いかに若者が蔡英文を支持しているかが分かります。実は、選挙の2日前の時点では、韓国瑜の勢いが非常に強くなっていました。そ

う極限に達しています。つまり、投票できる人間はほぼ全員投票したということ。その高投票率と若者の情熱からすれば、台湾はこの一戦で中国との政治的関係をほぼ断ち切ったと言えます。  
**趙** 私もそう思います。台湾人は「中

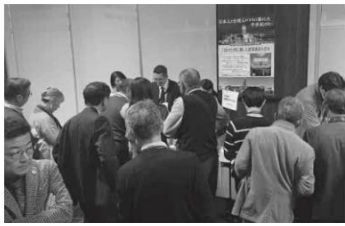
台湾との関係を積極的に強化しているトランプ政権。新型肺炎抑止では米台で物資提供の協力体制を敷き、3月末には台湾の外交を支援する新しい法案がアメリカで成立。対中政策として日米台、3国の関係強化が重視されるなか、順調なのは米台だけで、日本だけ“落ちこぼれ”感が強い。そんな日本を台湾人の識者はどう見ているのだろうか？

#contents06

## 自由で開かれた台湾を守る ＜ONE TAIWAN プロジェクト＞報告レポート

#contents07





今回のイベントにたくさんの美しいお写真を提供してくれた片倉佳史さんの著作をはじめ、台湾についての書籍の物販コーナーも大盛況でした

自分は全然台湾という国を知る努力をしてこなかったな……と申し訳ない気持ちになりました。  
そこで、この話をもっと多くの人に知って欲しい、台湾の真実を広めたいと感じ、この「ONE TAIWANプロジェクト」を企画したの

です。そのキックオフとして開催したのが、今回レポートするシンポジウムです。開催が決まったのが9月末……。わずか2カ月の準備期間しかなかったため、超特急で準備、調整を進めてきました。  
結果として、会場参加の方が644名、インターネットでご視聴いただくライブ配信の申し込みが1686件、それもアメリカ、カナダ、ヨーロッパをはじめ、シンガポール、オーストラリア、ニュージーランド、台湾など、幅広い国から参加者が集まり、皆さまの熱量の高さを感じました。  
合計で2330名もの方にお申し込みいただけたことは、台湾に対する注目度の高さとともに台湾の方にも大いに励みになったようです。本当にありがとうございます。

私たちは台湾・民進党を応援します！  
シンポジウムのオープニングセッションでは、蔡英文総統のビデオメッセージと、次の副総統、頼清徳氏からの祝電を紹介。また、イベントの後援を務めていただいた全日本台湾連合会の趙中正さん、続いて台湾独立運動の第一人者、王育徳氏の御息女である王明理さんにご挨拶をいただきました。流暢な日本語で台湾への想いを伝える姿は、さっそく会場に感動を与えました。  
じつは、このイベントの約1カ月後、2020年1月11日は、世界中が注目する台湾総統選挙の日でした。台湾では、かつて蒋介石が中国から率いてきた国民党と、それに対抗する台湾人による民進党(民主進歩党



# 日台は運命共同体！ 日本から送った 「台湾加油」のエール

「ルネサンス」編集長 萩原敬大

## @TOKYO

このプロジェクトを立ち上げたきっかけは、2019年の8月末、JCPACという一大イベント(米国最大の保守系イベントの日本開催版)に登壇された林建良さんのスピーチを聞いたことでした。日本、そして日本人への深い愛と敬意を持って、時には優しく、時には厳しい口調で語りかける林さんの言葉が胸に突き刺さり、深く印象に残りました。  
親日国と呼ばれる台湾ですが、じつは台湾の教育、政治、メディアの大部分は親中派に握られ、戦後長いあいだ反日教育が続けられてきたそうです。では、その親日感情は一体どこから来たのか……？ 林さんのお話を聞くうちに、誇らしい気持ちを味わうとともに、台湾が親日国であるというイメージにあぐらをかき、



日本でのシンポジウムに引き続き、実際に現地、台湾を訪れた「ONE TAIWANプロジェクト」メンバーたち。彼らは台湾の地で何を見て、何を学び、何を感じたのでしょうか。



「台湾加油」(台湾がんばれ)、「蔡英文加油」(蔡英文がんばれ)の大会で幕を閉じました



終了後は、パレスホテルにてゴールド席のお客様と来賓・講師の方によるレセプションを開催。ここでは許世楷・前大使ご夫妻によるご挨拶をいただきました

脅威を無効化できるのか、自由で開かれた台湾を維持するにはどうしたらいいのかなどについて、それぞれが知恵を持ち寄り、具体的な対応策を話し合いました。

土などを奪う戦略)には、取返してわれわれもそのズルいやり方を真似してしまえばいいという意見が飛び出しました。

たとえば台湾と日本の関係に応用し、その距離を半歩・一歩と縮めていく。そしてゆくゆくは台湾関係法をいつの間にか結んでしまい、台湾

も日本も自立を成し遂げてしまおうという提言は、ぜひ実践して欲しいなと思いました。

会の最後には、全員で「台湾加油」(台湾がんばれ)の応援メッセージを合唱。林さんが、台湾が一つの国として承認された際には、新しい国旗、国歌にしたいと語る歌が流れ、感動的な雰囲気のまま幕を閉じました。

2,330名が参加した「ONE TAIWAN プロジェクト」シンポジウムの講演録はこちらでご覧いただけます。

[dpweb.jp/chfchh](http://dpweb.jp/chfchh)

台湾の歴史・知られざる日本精神の秘密がわかる……！ 藤井厳喜×林建良の共著「台湾を知ると世界が見える」はこちらから。

[dpweb.jp/d8485n](http://dpweb.jp/d8485n)

**12** 月14日に台湾で開催された「日台戦略的友好シンポジウム」(米国保守系最大のイベントであるCPACの台湾版を目指して開催されたもの)への参加にあわせ、「ONE TAIWANプロジェクト」チームでは、台湾の歴史や政治を学ぶ5日間の台湾研修ツアーを敢行。

シンポジウムでは、藤井先生がメインスピーカーの1人として多数登壇されたほか、東京で開催したシンポジウムの成功を自ら報告。「勇気と誇りをもたらした」と、多くの台湾の人から喜びの声をいただきました。ご参加いただいた皆様のおかげです。ありがとうございます！

ここでは、僕たちが訪れた場所やお話を伺った台湾の要人の方々へのインタビューを掲載します。

@TOKYO

- 「日本最大級”日台プロジェクト”始動」日本人が知るべき”親友”台湾の歴史
- 「”燕返し”で中国の存在感ゼロ？」台湾正名運動”発案者が語る、中国を抑え込む唯一の方法

@TAIWAN

- 「台湾總統府に表れる”日本のDNA”」最高機関のドアノブに込められた意味
- 「日台の絆で作った”命がけのダム”」台湾を救った伝説の日本人技師

# 烏山頭ダム・ 八田與一記念館

枯れた大地を  
緑の大地へと変えた  
日本の技術の粋を集めたダム  
萩原敬大 Hagiwara Keita

以前から訪れてみたかった烏山頭ダム。初めてこの目でみると、思った以上に広大で荘厳でした。八田與一をはじめ、日台の技術者たちの貢献がなければこの光景はなかったのかと思うと感慨深い気持ちになります。というのも、水害と旱魃に悩まされ続けてきた不毛互嘉南平原を台湾最大の肥沃な穀倉地帯へと変貌させたのが、八田與一らが苦心の末に作り上げた烏山頭ダムだったからです。

僕たちは学校で教わる機会がほとんどありませんが、台湾の中学校では日本統治時代のことを教科書の4分の1にもわたって学び、現在も八田與一の功績が詳しく教えられているそうです。それを知って、申し訳なさや探究心などが甦りました。こんな気持ちをも他の多くの日本人にも感じてほしい……そんな体験でした。

最後にダム建設の際に犠牲になった方々の慰霊碑に向かいました。前例がなかった大工事ゆえ、爆破や土砂崩れ等で1000名以上の方が命を落としたとのこと。慰霊碑には台湾人日本人の区別なく、亡くなった順に名前が刻まれているそうです。このダムが「日台の絆の象徴」とされるのも深く頷けます。



今でも八田與一を偲び、この銅像を訪れる台湾人も多い

写真提供：中田浩資

# 台湾総統府

日本統治時代から  
今なお使われ続ける  
台湾の最高統治機関  
寺井直斗 TERAI NAOTO

日本統治時代の1919年に完成し、ちょうど今年で100周年。日本の威信をかけて建てられたこの建物は「東洋随一」と謳われただけあって非常に美しく、現在は国定古蹟に指定されています。100年前に建てられた建築物が現在も台湾の国会議事堂として使用されていることに驚きましたが、その背景には蒋介石による大陸反攻の影響もあり、台湾の複雑な歴史を内包する建物でもあります。

総統府を歩いていて目についたのが、ドアノブの低さ。これは当時の日本人の身長が低かったからではありません。ガイドを務めてくださった片木さん曰く、低いドアノブに手をかけて部屋に入ると、自然と腰をかがめて頭を下げることになり、中には上司や同僚への敬意につながるからとのこと。ドアノブの位置にも礼儀を重んじる精神が表れていると知り、台湾に息づく「日本人精神」を改めて認識できました。



ドアノブに「鶴の紋章」が入っている部屋も  
写真提供：片倉佳史

写真提供：片倉佳史

#contents08

#contents09

- 「台湾要人が中国を徹底解剖！」新副総統、立法院長、台南市長との対談を大公開
- 「”帝国主義国家”中国を作ったのは日本？」天安門事件で日米が犯した致命的な判断ミス  
日本、台湾、そしてアジアの自由な民主政治のために

#contents10



# 日本、台湾、そして アジアの自由な 民主政治のために

## ——台湾政府要人との対話

今回の訪台ツアーでは、台湾民進党の要人の方々と対話をさせていただく機会がありました。台湾政府では今の世界情勢、アジア情勢をどう捉えているのかを直接聞ける非常に有意義な機会でした。



通訳協力：郭貞慧、林佳慶

台湾要人×藤井巖喜 [PART1]



立法院長

游錫堃

ゆう しやくこん  
長きにわたって

世界中をペテンに

かけた、中国の

「詭道」の手法

1948年生まれ、台湾の宜蘭（ぎらん）県出身。現在、2020年1月の選挙で再選を果たした民進党、蔡英文政権で立法院長（国会議長）を務める。東海大学政治学科卒業。これまでに民進党主席、総統府秘書長、総統府秘書長（官房長官）、行政院長（首相）、民進党主席等を歴任。民進党「四天王」の一人とされる。

### アジアの民主主義を守ろう

藤井 まずは、昨年12月8日に東京

で開催した「ONE TAIWAN

プロジェクト」の成功についてご報

告申し上げたいと思います。私は政

治家ではなく一民間人ですが、「自

由で民主的に開かれた独立国である

台湾を支持する日本人がたくさんい

る」ということを台湾の方にもお知

らせたくてこの会を開催しました。

それを今日は正式にご報告したいと

思っていました。

游 日本で台湾を応援するイベント

を盛大に開いていただき、とても感

謝しています。1人の台湾人として、

お礼の言葉を申し上げます。

2018年5月30日に米軍が太平

洋軍司令部をインド太平洋軍司令部

と名前を変えて再編成しましたが、

それは台湾の戦略的地位が非常に重

要になってきたということです。現

在、東海（東シナ海）という戦略的

に重要な場所で中国がどんどん影響

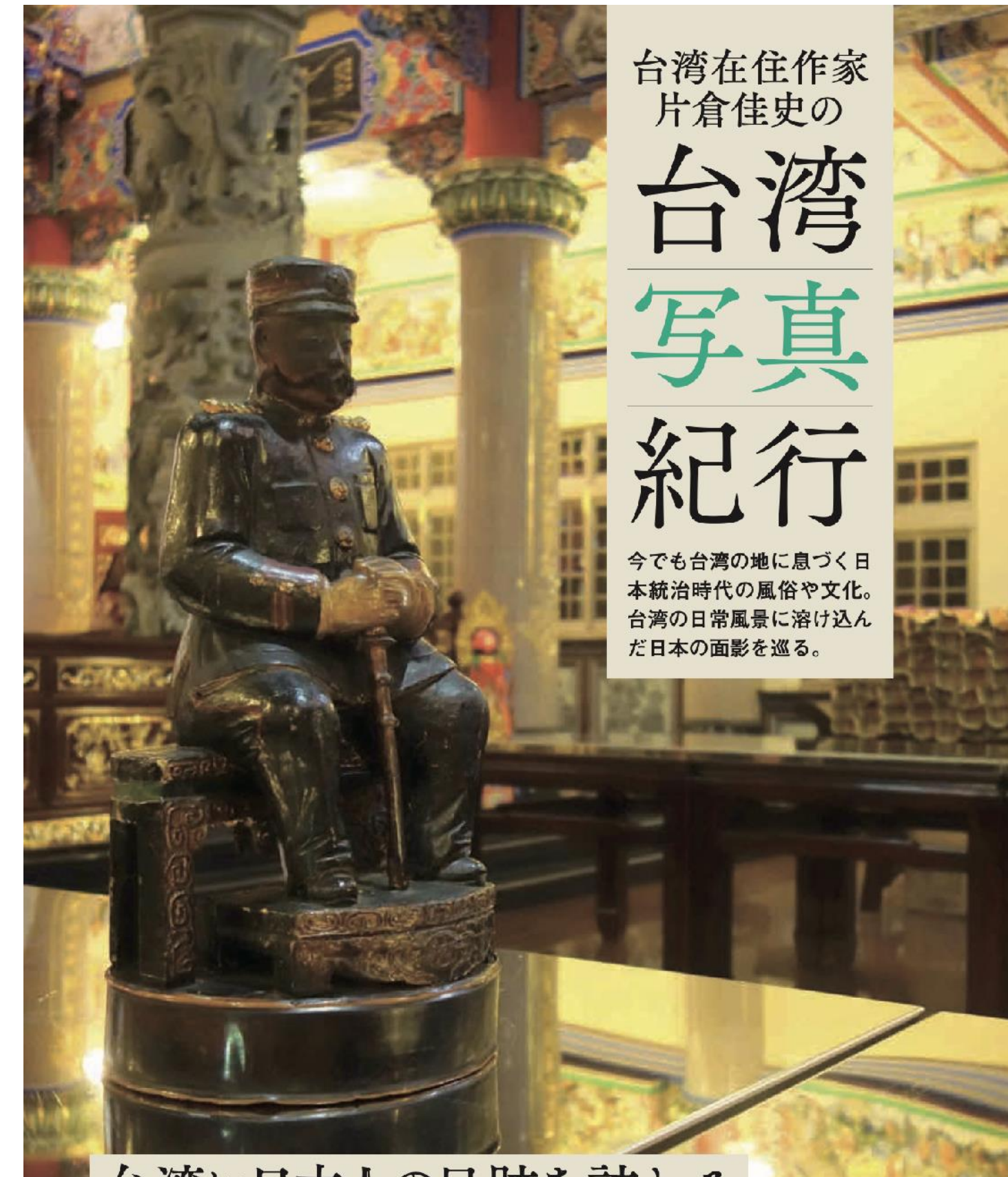
今回の訪台ツアーでは、台湾民進党の要人の方々と対話をさせていただく機会がありました。台湾政府では今の世界情勢、アジア情勢をどう捉えているのかを直接聞ける非常に有意義な機会でした。

台湾在住作家。武蔵野大学客員教授。1969 年生まれ。早稲田大学卒業後、出版社勤務を経て台湾と関わる。台湾に残る日本統治時代の遺構を探し記録している。手がけたガイドブックはのべ 40 冊を超え、著書に『台北・歴史建築探訪』(ウェッジ)、『台湾に生きている「日本」』(祥伝社新書)等多数。台湾事情や歴史秘話、日台の結びつきをテーマに講演をおこなっているほか、ツアーの企画なども手がけている。公式ウェブサイト「台湾特捜百貨店」<http://katakura.net>

台湾在住作家・片倉佳史

[#contents11](#)

台湾写真紀行



台湾在住作家  
片倉佳史の

# 台湾 写真 紀行

今でも台湾の地に息づく日本統治時代の風俗や文化。台湾の日常風景に溶け込んだ日本の面影を巡る。

## 台湾に日本人の足跡を訪ねる

片倉佳史（かたくら・よしふみ）

台湾在住作家。武蔵野大学客員教授。1969年生まれ。早稲田大学卒業後、出版社勤務を経て台湾と関わる。台湾に残る日本統治時代の遺構を探し記録している。手がけたガイドブックはのべ40冊を超え、著書に「台北・歴史建築探訪」（ウェッジ）、「台湾に生きている『日本』」（祥伝社新書）等多数。台湾事情や歴史秘話、日台の結びつきをテーマに講演をおこなっているほか、ツアーの企画なども手がけている。

公式ウェブサイト「台湾特捜百貨店」<http://katakura.net>



**飛虎將軍廟**  
 飛虎將軍廟は、1945年の第二次世界大戦で戦死したパイロットの霊を祀る。廟にはパイロットの遺品や、戦時中の写真などが展示されている。また、パイロットの魂を慰めるための祭りが行われる。

**児玉源太郎と後藤新平の銅像**  
 台北にある児玉源太郎と後藤新平の銅像。児玉は台湾に赴き、後藤は台湾を統治した。この銅像は、彼らの功績を称えるものである。

**紅毛港保安堂**  
 紅毛港保安堂は、1911年に建てられた。この堂には、台湾の歴史や文化に関する展示がある。また、伝統的な祭りが行われる。

**義愛公・富安宮**  
 義愛公・富安宮は、1911年に建てられた。この宮には、台湾の歴史や文化に関する展示がある。また、伝統的な祭りが行われる。

かたから よしふみ

我々は何故「自由」を失ったのか？

1952 年生まれ。ハーバード大学大学院博士課程修了。82 年に自身のシンクタンク「ケンブリッジ・フォーキャスト・グループ・オブ・ジャパン」を立ち上げ、40 年間発行する会員制レポートは「世界情勢を読み解くバイブル」として高い評価を得る。99 年、米ブッシュ政権との架け橋として外交の裏側を担ったのをはじめ、国際的・政治的な活動も精力的に展開。著書多数、「ニュース女子」など数多くのマスコミで活躍中。文化、思想、宗教など多方面から未来を見通す能力は内外の専門家から高く評価されている。

国際政治学者・藤井厳喜

#contents12

ふじい げんき

○なぜ日本は国民の命を最優先する政策が取れないのか？文明史から藤井厳喜が読み解く

○「社会主義目前の日本」自由を奪われる？日本が省みるべき奴隷根性とは

武漢ウイルスから見る文明史



我々は何故  
「自由」を  
失ったのか？

## 武漢ウイルスから見る 文明史——「自由」と「隷属」の二項対立

藤井厳喜 (国際政治学者)

いつまでもドアが開きっぱなしの日本

武漢で発生した伝染病が甚大な健康被害と世界同時大恐慌をもたらしつつある。この伝染病をWHOはCOVID・19と命名したが、筆者は「武漢ウイルス肺炎」と一貫して呼んできた。それは発祥の地とパンデミックを発生させた中国共産党の責任を明らかにする為である。

武漢肺炎の大発生の責任が初期対応を誤った中国共産党独裁政権にあることは間違いない。中国共産党は加害者であるにも関わらず被害者の風を装い、今や問題解決の英雄になったと世界中に宣言している。チャイナ国内で真の問題解決は全く見えていないのに、事実を隠蔽して、チャイナはこの病を克服したと世界に宣伝している

のだ。3月1日以降、中国共産党は明らかに防疫活動から政治宣伝活動へと活動の重点を移している。

中国共産党のこうした体質や、世界同時不況に如何に対応するかなどを論ずることも重要だが、本稿ではこの特集のしめくりとして、日本が何故この危機に際して日本国民の生命と健康を最優先させる政策がとれなくなっているのかについて自問自答してみたい。

チャイナで武漢ウイルスが急拡大している時に、日本はアメリカや台湾を見習い、一早くチャイナからの人間の流入を全面的にストップすべきであった。如何なる高度の防疫体制を講ずるよりも、汚染源の国からの潜在的感染者の流入を止めることの方がはるかに重要である。伝染病の拡大を防ぐには、非常に原始的だが隔離という



Interim Archives / ゲッティ